

天ヶ瀬温泉を舞台にした観光教育の実践

別府大学短期大学部
地域総合科学科

講師 池口 功晃

① はじめに

平成18年に観光立国推進基本法が制定されてから、わが国における観光関連の政策は矢継ぎ早に打ち出されてきた。平成20年には国土交通省の外局として観光庁が設立され、当庁が訪日外国人誘致のためのプロモーションや、観光振興を中心とした地域自立への支援など、さまざまな観光行政を一手に担うようになったことは記憶に新しい。これら諸施策の概要は毎夏に刊行される「観光白書」に詳細に報告されている。

観光が近年注目を集める理由の一つに、それが地域経済を活性化させる機能を有する点を挙げることができる。特に、少子高齢化が進む農山村において、定住人口の増加を見込むことは今後一層難しくなっていくことが予測され、地域社会の維持が人手面のみならず財政面においてもますます厳しくなっていく。このような状況下で交流人口の増加に地域自立の活路を見い出そうとするのは当然の流れである。この交流人口こそ、観光そのものにほかならない。交流人口の増加によってもたらされる地域への経済効果は、具体的には直接効果と生産波及効果という形で表れるわけであるが、地域全体が観光客に対して、いわば供給者としての機能を十分に果たすことができれば、これらの効果は非常に大きなものとなる。したがって、各地域で今後ますます観光を通じた地域振興が増えていくに違いない。

こうした動きに呼応して、1990年以降、大学等の高等教育機関において観光関連の学部や学科が数多く設置されてきた。那須ほか（2008）によると、そこでの教育は以下の3つに集約されるとい

う。すなわち、①ビジネスとしての観光②地域社会と観光③文化現象としての観光である。また荒木ほか（2008）は大学等の高等教育機関における観光教育の現状を分析し、観光教育は地域が抱える問題点を把握・抽出し、解決のための具体的な処方箋を提示できるものでなければならないと指摘している。このように、高等教育機関における観光教育には、その一つとして観光の視点から地域社会の課題を捉え、その解決策を探る力を養うことが求められている。

別府大学短期大学部地域総合科学科には1年次の必修科目に「観光学概論」を設置している。この授業は、地域社会と観光のかかわりに重点をおいた実学色の濃い内容となっており、観光とは何かを体系的に学ぶことができるように構成されている。そこで、本稿では大分県日田市にある天ヶ瀬温泉を舞台にした本科における観光教育の取り組みを紹介し、その教育成果について考察することを目的とする。

② 天ヶ瀬温泉の観光客推移と実習（観光教育）の経緯

天ヶ瀬温泉は大分県日田市中心部から玖珠川沿いを15kmほど遡ったところにある山間の温泉地である（図1）。泉質は主として単純硫黄泉であり、温泉街のいたるところに設置されている手湯や足湯のほのかな硫黄の香りが温泉地の風情を醸し出している。『豊後風土記』には、約1300年前にこの地で発生した大地震が開湯の由来であると記されており、古くから別府、由布院と並び豊後三大温泉の一つに数えられてきた。写真1に見ら



図1 天ヶ瀬温泉 (大分県日田市) (Google earth より)



写真1 珍珠川沿いに立ち並ぶ天ヶ瀬温泉の旅館やホテル (筆者撮影)

れるように珍珠川沿いに旅館やホテルが立ち並んでいるが、このように河畔に宿が集まるようになったのは江戸時代末期から明治時代にかけてといわれ、江戸時代の儒学者である広瀬淡窓も一ヶ月ほど療養したと天ヶ瀬町誌に記されている。また、1960年代の高度経済成長期には数多くの社員旅行先として天ヶ瀬温泉が選ばれていたようである。しかし、近年、天ヶ瀬温泉を訪れる観光客は図2をみるとおり、減少の一途を辿っている。1990年には約25万人訪れていた観光客が2012年には半数以下の約9万5000人まで減少している。また、それに呼応するかのようには1986年に約30軒ほど営業していた旅館やホテルが現在約20軒にまで減少している。

天ヶ瀬温泉を訪れる近年の観光客はいわゆる団塊の世代が多く、若年層が少ない。そこで、天ヶ瀬公民館および日田市天ヶ瀬振興局より、観光の視点から地域を活性化するヒントを得たいとの依頼があった。具体的には、若い人が天ヶ瀬温泉を中心

とした天ヶ瀬町に来てくれるような観光の仕掛けや視点を学生とともに考える機会を持ちたいとのことであった。そこで詳細な打ち合わせの後、今年度中に3回ほど学生を連れて天ヶ瀬町に訪問することを決定し、1、2回目に視察を中心とした実習を、最終回は観光関係者や住民などとの意見交換会を行うことにした。



図2 天ヶ瀬温泉の観光入込客総数 (1985年～2012年) 「観光動態調査」より筆者作成

3 実習前の準備

天ヶ瀬町を訪問する具体的な日程が決定した後、初回の実習までに天ヶ瀬温泉を中心とした天ヶ瀬町の主な観光資源について講義を行った(写真2)。また、実習中、学生が天ヶ瀬町の各観光スポットの課題の発見に集中できるように授業を工夫した。図3は授業中に使用したレジュメの一部である。天ヶ瀬町のいろいろな観光関連の資料を各学生に与



写真2 講義風景 (天ヶ瀬温泉を中心とした天ヶ瀬町の観光資源についての説明)

天瀬町の観光資源

問題 以下の（ ）を埋めなさい。

1. 天ヶ瀬温泉と天瀬温泉、正しい表記はどちらですか？ （ 天ヶ瀬 ）温泉
2. 1の温泉は約（ 1300 ）年前の大地震で開湯したといわれており、（ 別府 ）温泉、（ 由布院 ）温泉と並ぶ豊後三大温泉の一つである。
3. 1の温泉は（ 玖珠 ）川沿いに広がっており約（ 20 ）軒の旅館やホテルがある。
4. 1の温泉の泉質は90℃を超える単純（ 硫黄 ）泉で無色透明である。
5. 映画「寅さん」シリーズ第43作で登場する温泉旅館は（ 本陣 ）である。
6. 1の温泉まつりは毎年（ 4 ）月上旬に行われる。また、12月には（ ゆず ）風呂も楽しむことができる。
7. 1の温泉の特徴は川の「せせらぎ」が聞こえる共同（ 露天 ）風呂であり、同温泉街に（ 5 ）つ設けられている。管理・運営は地元の自治会が行い、入浴料は1回（ 100 ）円である。
 - ①（ 神田 ）湯…成天閣吊り橋の近く
 - ②（ 鶴舞 ）の湯…新天ヶ瀬橋近く
 - ③（ 益次郎 ）温泉…5つの風呂の中では唯一、川の右岸にある。
 - ④（ 薬師 ）湯…天ヶ瀬橋近く
 - ⑤（ 駅前 ）温泉…JR天ヶ瀬駅近く
8. 天瀬地域には1の温泉のほか、（ 湯の釣 ）温泉、（ 杖立 ）温泉がある。
9. 天瀬にはJR天ヶ瀬駅前に手湯が1箇所、足湯は温泉街に全部で（ 7 ）箇所ある。
10. 天瀬には（ 天ヶ瀬温泉なんでも ）パスポートが1冊1000円で販売されていて、加盟温泉旅館やホテルの温泉やその他施設を格安で利用することができる。
11. 特急「ゆふいんの森」号（博多～由布院・別府）はJR天瀬駅に停車（する・しない）
↑○をつける
12. 天瀬町南部には（ 五馬 ）高原があり、バラが150種も咲き誇るローズガーデンがある。
13. 天瀬町には「天瀬六爆」といわれるほど滝が多く、JR杉河内駅近くには（ 慈恩 ）の滝が、山荘天水 近くには（ 桜 ）滝が、JR豊後中川駅近くには（ 観音 ）の滝がある。
14. 高塚愛宕地蔵尊は奈良時代に（ 行基 ）がこの地を訪れ、一体の地蔵尊を刻んだことに始まる。もとはお乳の出がよくなるお地蔵さまとして知られていたが、現在では所願成就にご利益があると、毎年（ 150 ）万人ほどの参拝客が訪れる。

図3 授業中に使用したレジュメの一部（天瀬町の主な観光資源）

え、これを参照しながらレジュメの問いの（ ）を穴埋めさせるようにした（写真3）。このような授業形式は思考が画一的になりすぎ、学生が自由な発想をしたり、思考そのものの機会を奪う可能性があるとの指摘がある。しかし、地域の課題発見の成否は、その地域の基本的理解にかかっているとと言っても過言ではない。したがって、実習前までに天瀬町に関する知識を習得するように徹底的に取り組ませた。



写真3 資料を片手に天瀬町に関する基礎的な知識を習得する学生

4 天瀬町の主な観光資源

ここで天瀬町の主な観光資源について触れておきたい。今回視察した天瀬町の主な観光資源は（1）天ヶ瀬温泉（2）高塚愛宕地蔵尊（3）顕徳坊尊（4）滝（桜滝・観音の滝・慈恩の滝）である。

（1）天ヶ瀬温泉は源泉が90℃を超える無色透明の掛け流しで、川沿いには5つの共同露天風呂（写真4）があり、それぞれに異なる利用時間の制限はあるものの1回100円で誰でも入湯できる。これらの共同露天風呂は地元自治会が管理・運営を行っているが、天ヶ瀬温泉街を貫流する珍珠川の上流にはダムがないことから、梅雨の季節など降水量が多い時には川が短時間に増水し、上流から流されてきた砂礫が露天風呂を埋めることもあるという。また、温泉街の至る所には無料の手湯や足湯が設置され、来訪する観光客を楽しませて

くれる。

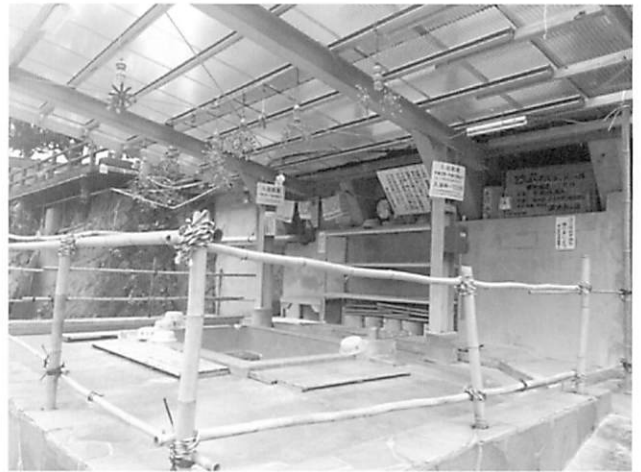


写真4 天ヶ瀬温泉にある共同露天風呂（地元自治会が管理・運営している）（筆者撮影）

（2）高塚愛宕地蔵尊は1200年前、行基（奈良時代の僧侶）が聖武天皇の命を受け全国を巡業していたとき、この地のイチヨウの木の下で天下泰平、豊国繁栄の祈りを続けるうちにご神託があったことから、一体の地蔵尊を刻んで一堂を建て、安置したことが始まりと言われている。境内のイチヨウの巨木（写真5）はご霊木として祀られており、株には乳様の突起が沢山あるため、乳イチヨウの名がついている。これより、昔からお乳の出がよくなるお地蔵さまとして知られていたが、現在は所願成就にご利益があるとのことで、年間約150万人ほどの参拝者が訪れている。



写真5 高塚愛宕地蔵尊境内のイチヨウ（株には乳様の突起が沢山ある）（筆者撮影）

（3）顕徳坊尊とは、この地で亡くなった奥州の

僧侶を祀ったものである。昔、奥州（現在の山形県）の僧侶がこの地を訪れた際、不幸にも病にかかり亡くなった。僧侶は亡くなる前、村の人に対し持ち金をすべて差し上げるので、生まれ故郷である奥州の見えるところに葬ってくれるように頼んだという。そこで、村人は村で一番高く見晴らしのよい地に僧侶を葬った。その後、靈験あらたかな顕徳様として多くの参拝者に知られ、風光明媚な山頂は終日賑わいをみせている（写真6）。



写真6 顕徳坊尊（湯山地区の方々とともに記念撮影）

（4）天瀬町には滝が数多くある。その主なものを紹介したい。①JR天ヶ瀬駅にもっとも近い滝が桜滝である。その様子は「砕け散ること花のごとく、流下することすだれのごとし」と謳われた。②天ヶ瀬温泉街から玖珠川をさらに下流に進んだ国道210号沿いに観音の滝がある。滝の中央の岩が観音像に似ていることからこの名がついたといわれている。③玖珠町との境に位置する2段落としの珍しい滝を慈恩の滝という。実習の当日、天ヶ瀬温泉街へ向かうバスの中から最初に見ることができたこの滝の雄大さに、学生の多くが見惚れていた。

また、天瀬町には特産品も多い。柚子はこの地域の代表的な柑橘類であり、柚子シャーベットや柚子胡椒など、あらゆる食品に利用されている。また、玖珠川では毎年5月下旬頃に鮎漁が解禁となる。実習当日も何名かの釣り人が川の浅瀬を陣取り、鮎の習性を利用する「友釣り」を楽しんでいた。この鮎漁には県内外から多くの釣り人が集まってくるという。

5 天ヶ瀬温泉に対する学生の意見（要約）

実習に当たって、学生には率直な感想や意見をメモに取らせるようにした。以下は天ヶ瀬温泉街を歩いて見て回った学生の感想（要約）である。それぞれにキーワードを付した。

学生のメモ [天ヶ瀬温泉](要約)

[良い点]

- ・自然が豊かで壮大。
- ・天ヶ瀬温泉街の人たちはやさしくて親切だった。
- ・足湯や味噌まんじゅうがよかった。
- ・川沿いの露天風呂はとても開放感があってよい。
- ・温泉の料金が安くてよい。
- ・別府より川がきれい。
- ・吊り橋が楽しい。
- ・旅館「本陣」は寅さん映画に出ただけあって迫力があつた。
- ・温泉街の人たちと交流できて気持ちが温まった。

⇒キーワードは自然、地域住民との交流

学生のメモ [天ヶ瀬温泉](要約)

[改善すべき点]

- ・建物の老朽化が目立つので何か再利用すると良い。
- ・ゴミ箱が見当たらないので設置するとよい。
- ・意外に温泉が少なかった。湯布院のように行く先々で温泉があるとよい。
- ・駐車場が遠いので近くにできるとよい。
- ・若い人向けの店があるといい。（かき氷、ソフトクリームなど）
- ・川を有効に使ったイベントがあるとよい。花火大会など。
- ・川湯は開放感があるが、歩いている人に見られるので抵抗がある。
- ・良いところが沢山あるのに意外と知られていない気がする。CMなど作ると県外から観光客が増えると思う。
- ・露天風呂はわかりづらいので看板などを立てるとよい。
- ・かわいいキャラクターをつくるとよい。

キーワード⇒建物および温泉街の手入れ、イベント、若い人向けの店

6 実習の教育効果と天瀬町への貢献

実習前に入念な準備を行っていた結果、各観光スポットにおける学生の意見は質の高いものが多く出揃ったように思える。天ヶ瀬温泉の良い点として、地元の方々との触れ合いを挙げた学生が非常に多かった。行く先々で温かく迎えられたこと



写真7 実習中の風景（行く先々で地元の多くの方々
に温かく迎えられた）（筆者撮影）

が要因になっているのかもしれない。また、玖珠川など自然の雄大さを挙げた学生も多く見られた。

一方、改善すべき点としては建物の老朽化を指摘し、これらを何かに再利用すべきといった意見が目立った。景観を重視する視点は、温泉街全体の活性化のヒントとなるのではないだろうか。

今回の実習を通して、学生が地域の自然、歴史、文化を学ぶ機会を得ると同時に、観光の視点からまちづくりを主体的に考える機会を得られたことは大きな教育成果があったと思われる。一方、天瀬町も今後、学生の意見を活かすことで地域活性化のヒントを得ることができると思われる。

7 おわりに

今回は初回の実習だったので、学生は天ヶ瀬温泉を中心にメモを取りながら視察を行うにとどまった。しかし、温泉街では、行く先々で店の方々から声をかけて頂き、温かく迎えて頂いたことや試食をさせて頂いたことで、学生は大変満足した様子だった。こういった地域の方々との温かい交流を学生の多くが天ヶ瀬温泉街の良い点とし

て挙げていた。また、事前の学習を十分に行うことが、このような実習を実施するにあたって極めて大切であることが理解できた。繰り返しになるが、地域の課題を発見する力は、地域の基本的理解の上に成り立つものである。実習中、学生が課題の発見に集中できたことは一定の成果であったと自負している。事前学習については今後も重視し継続していきたい。今回の実習で得られた学生のさまざまな意見は、3回日に実施予定の住民との意見交換会に役立てたいと考えている。

また、当日の実習の様子は西日本新聞および大分合同新聞の記事となったことでマスコミの関心の高さを知ることができたと同時に、天瀬町のPRにもなり得たことと思われる。また、学生には学習意欲を向上させるよいきっかけになった。次回は10月下旬頃に再訪問し、①温泉②自然③食文化などをテーマにしてそれぞれの班ごとに調査を行う予定である。

〔謝辞〕

この度の実習を行うにあたり、たくさんの方々にご協力を頂きましたことをここに改めて感謝申し上げます。今回のお話のきっかけを作って下さいました別府大学文学部教授の松田美香先生、打ち合わせの段階から入念な準備をして下さいました天瀬公民館の日野和則様、天瀬振興局の小関憲治様、また天ヶ瀬温泉街の皆様、湯山地区の皆様にもたくさんのご協力を頂き有難うございました。今後、実習を通じた学生の意見が天瀬町の観光活性化に少しでも貢献できればと考えております。

〔参考文献〕

- 日田市天瀬町（1986）『天瀬町誌』
那須幸雄，佐々木正人，横川潤（2008）「わが国における大学の観光教育の分析：現状と動向」
『文教大学国際学部紀要』第18巻2号
荒木長照，浅羽良昌，池田良徳〔他〕，田口順等，
宮田由紀夫（2008）「大学における観光教育研究の可能性（1）～（3）」『大阪府立大学経済研究』第54号1巻～3巻